

研究紀要

第28号

加曾利B1式の横帯文系紐線文土器について

大屋 道則
上野真由美

西関東における高井東式土器の研究

古谷 渉

磨製石斧の材料と加熱処理

大屋 道則

埼玉県内の北陸系弥生土器－池上・小敷田遺跡を中心に－

魚水 環

大木戸遺跡の方形周溝墓

福田 勝

水晶製勾玉の製作とその工程

上野真由美
大屋 道則

川越田遺跡の手捏ね土器と祭祀（2）

福田 勝
赤熊 浩一
岡本 千里
澤口 美穂
大屋 道則

古墳時代後・終末期における一墳丘複数埋葬古墳について（1）

青木 弘

古代瓦葺き寺院の衰退－国分寺創建後の寺院像を瓦から考える－

星間 孝志

2014

公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



1 高井東式 羽状沈線（在地）表



2 高井東式 羽状沈線（在地）裏



3 高井東式 波状緑隆帶文（在地）表



4 高井東式 波状緑隆帶文（在地）裏



5 高井東式 波状緑隆帶文（搬入品）表



6 高井東式 波状緑隆帶文（搬入品）裏



7 安行1式 带繩文系（搬入品）表



7 安行1式 带繩文系（搬入品）裏

上段：前原遺跡出土遺物

下段左：前原遺跡勾玉未製品集中一面 右：同二面



上段：反町遺跡出土遺物 中段左：反町遺跡 SJ48 勾玉未製品集中 同右：同 SJ48 遺物出土状況 卷頭図版 3
下段： 1：剥離痕 2：敲打痕 3：敲打研磨痕 4：同（腹部） 5：同（面取り） 6：穿孔痕



目 次

卷頭図版

序

- 加曾利B 1式の横帯文系紐線文土器について 大屋道則 上野真由美 (1)
- 西関東における高井東式土器の研究 古谷 渉 (29)
- 磨製石斧の材料と加熱処理 大屋道則 (45)
- 埼玉県内の北陸系弥生土器—池上・小敷田遺跡を中心に— 魚水 環 (49)
- 大木戸遺跡の方形周溝墓 福田 聖 (61)
- 水晶製勾玉の製作とその工程 上野真由美 大屋道則 (73)
- 川越田遺跡の手捏ね土器と祭祀 (2)
..... 福田 聖 赤熊浩一 岡本千里 澤口美穂 大屋道則 (95)
- 古墳時代後・終末期における一墳丘複数埋葬古墳について (1) 青木 弘 (115)
- 古代瓦葺き寺院の衰退—国分寺創建後の寺院像を瓦から考える— 昼間孝志 (131)

古墳時代後・終末期における 一墳丘複数埋葬古墳について（1）

青木 弘

要旨 本稿では古墳に複数の埋葬施設が伴う事例を「一墳丘複数埋葬古墳」として取り上げ、とくに古墳時代後期から終末期にかけて数多く造られる横穴式石室をもつ古墳に注目した。横穴式石室における一墳丘複数埋葬古墳はそれぞれの埋葬施設の築造時期や系譜、階層性などの検討課題が多く、そのうえで古墳群や群集墳、そして地域における位置づけを進める必要がある。近年の事例増加により従前の定義に沿わない事例も増えつつある。

こうした現状から、本稿は「その1」として一墳丘複数埋葬古墳を対象に先行研究と定義の再検討を行い、事例を集成した。集成の結果は210基で、近畿地方を中心に鳥取県や愛媛県、関東地方では埼玉県に事例がやや集中する。これらは後期の前方後円墳と円墳が最も多く、終末期には長方形墳と方墳に偏る傾向がある。集成を踏まえ、埋葬施設の同時期築造を古墳構造から検討する一例として、埼玉県内で唯一状態の良い小見真観寺古墳を分析し、同時期築造の可能性を指摘した。

はじめに

古墳時代後期・終末期は横穴式石室を埋葬施設とする古墳が全国で盛んに築造される。

本稿はそのなかでも墳丘に複数の埋葬施設を構築する古墳（一墳丘複数埋葬古墳）を対象とする。

一墳丘複数埋葬古墳は、それぞれの埋葬施設の系譜、階層性、そして追葬の問題、古墳群・群集墳内でのあり方と地域における本事例の位置づけを考えていくうえで重要な資料である。同様に、当時の古墳築造技術を明らかにするうえでも、本事例の古墳構造は多くの情報をもつだろう。

本テーマのその1として、本稿では全国の一墳丘複数埋葬古墳の集成と動向の分析を行い、その特徴を明らかにすることを試みた。

1. 先行研究と問題の所在

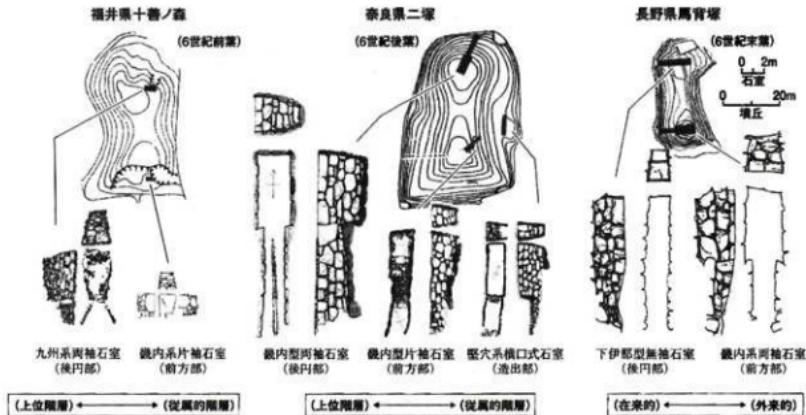
古墳時代後・終末期の一墳丘複数埋葬古墳は、横穴式石室の盗掘や不意の開口が多く、古くから認知されている事例もある。ただし、本事例が複数の埋葬施設をもつ点を研究対象として認識され始めたのは1980年代に入ってからである（泉森

1980、小田1980）。

泉森皎と小田富士雄の研究は、その後の基礎となる資料の提示、および「双墓」の定義設定といった重要な成果を上げた。こうした研究は1972年の奈良県高松塚古墳極彩色壁画の発見に伴い、「古墳時代終末期」という時期設定がなされ、古墳の終焉に関する研究が進むなかで萌芽したためか、対象資料は古墳時代終末期の「双墓」に限られていた。

その後、西日本を中心に事例検討や調査が進展する（茨木1981、正岡1982、森下・坂・細川1987a/bなど）。ただし、東日本の事例では茨城・千葉県下に分布する「変則的古墳」が注意すべき資料として認識されるに留まった（市毛1963、渋谷1989など）。

奈良県舞谷古墳群の調査において、楠元哲夫は泉森の定義を補足し、「双室墳」を再び定義して事例の検討を行った（楠元1994）。楠元は多様な埋葬形態をもつ本事例を4つの類型 α に設定した。その結果、「類型4」とした「双室墳」は終末期にのみ確認でき、そのほかの類型が後期を中



第1図 同一墳丘内における複数石室の事例

心に築造される対照的な点を指摘した。

近年では奈良県植山古墳、愛媛県宇摩向山古墳といった終末期古墳の調査事例の増加に伴い、「双室墳」は再び注目を集めている（脇坂1998、三好2007、吉水2008、小栗2010、南部2011）。

そして後期前方後円墳の複数埋葬事例についても同様に、愛媛県葉佐池古墳や広島県二子塚古墳といった古墳構造の判明した調査事例がわずかながら蓄積はじめている（栗田編2003・2010、畠・高田編2006）。

また、こうした前方後円墳の事例で、横穴式石室と竪穴式埋葬施設が組み合う事例についても注意喚起が行われつつある（岡本1997、清家2005、金井塙編2012）。

一方で、本資料に関わるテーマに「双円墳」の研究がある（堀田1997）。「双円墳」は大阪府金山古墳を代表とする円墳2基を接続した形状で、各墳丘に埋葬施設をもつ場合が多い。「双円墳」は韓半島に分布する高句麗や新羅の古墳にも認められる（齋藤1987など）。このため、古くから日本の事例と比較検討されてきたが、埋葬施設の構造が異なる点から直接結びつけることは難しい。

また、「双円墳」は後世の改変等により原状把握の困難な事例では墳形を誤認する恐れもあり、前方後円墳、長方形墳、あるいは近接した2基の円墳などと確実に区別できる事例は少ない。また、研究が進み、そもそも「双円墳」が日本列島の古墳では少ないと明らかになり、最近では金山古墳の研究に限る傾向がみられる（白石2010、中村2010）。

さて、本事例は複数の埋葬施設が一墳丘内に造られるという特徴から、上述の研究や報告でも葬制や被葬者像などへの言及が数多くみられる。ただし、当然ながら埋葬回数と被葬者像については、追葬が行われる横穴式石室が一つの古墳に複数造られる場合には複雑になる。横穴式石室が盗掘により埋葬当時の原状がわからない場合が多い点も、この課題の解消を難しくしている一因である（下垣2008）。

こうした状況下で近年の鈴木一有と下垣仁志の指摘は重要である（鈴木2011、下垣2012）。

まず鈴木は横穴式石室を通観するなかで、後期横穴式石室（6世紀後半）が築かれた時期には、「横穴式石室の形態と規模に被葬者の社会的位置

が示されている。」とし、「埋葬施設の形態には、帰属する地域や集団、倭王権との関係の強弱、広域交流網の違いが、規模の大小には被葬者の階層差が反映されている。」とみなす。そのうえで本事例に注目し、前方後円墳に複数の横穴式石室が構築される場合、後円部と前方部とは異なる系統の石室が構築される事例が散見できる点を、奈良県二塚古墳や長野県馬背塚古墳を例に指摘している（第1図）。

下垣は古墳の首長墓系議論を検討するなかで、複数埋葬へ再注目する必要性を提起し、鈴木の視点を重要視している（下垣2012）。

以上のように一墳丘複数埋葬古墳が提起する課題は、築造技術、被葬者像、系譜、古墳群・群集墳形成のなかでの位置づけ（通常の単独埋葬古墳との違い）など多岐にわたる。

2. 問題の所在

本事例は古墳の調査件数が増加するなかで、実数をはじめ事例の内容や傾向は十分に整理されておらず、先行研究の定義に当てはまらない古墳も少なからず出てきている。

こうした現状を踏まえ、本事例に関わる定義設定を見直すべく先行研究を第1表にまとめた。同表に取り上げた研究は古墳構造を起点に定義と分類をしており、被葬者像やその血縁関係、埋葬方法に基づく「合葬」「家族墓」といった概念は取り上げていない。「合葬」「家族墓」といった概念は、石室内に複数埋葬や追葬を行う事例も包括して様相が複雑になるためである。古墳構造に基づく定義に課題が生じている以上、対象事例を見直し、追加資料を集成したうえで再定義を行う必要があるだろう。

第1表の通り、研究ごとに事例の総称は異なる。定義の基礎は泉森の研究であり、その後、補元が舞谷古墳群の調査成果を踏まえて補強した。ただし、双方の研究ともに終末期古墳を起点に進めら

れたため、後期の事例はさほど注目されていない。近年、三好が兵庫県勝福寺古墳の成果を踏まえて前方後円墳を含めた定義を行った。また、南部の研究は各地の「双室墳」を端的にまとめているが、群集墳や墳丘・横穴式石室といった諸要素のなかで特徴ある点を並列して取り上げており、再検討の余地を残す。

これまでの研究は近畿地方を中心としてきたが、他地域も含めて見直すべきだろう。

近年、関東地方では古墳時代後・終末期に古墳の築造数が爆発的に増加するという現象が確認されている。そして近畿地方特有の墳形とされてきた上円下方墳が東京都武藏府中熊野神社古墳や福島県野地久保古墳などで発掘調査されている。このように各地方では看過できない成果が上がっていっている反面、様相はより複雑になっている。こうした事例の増加と多様化は今回取り上げる一墳丘複数埋葬古墳にも該当する。

すなわち、後期古墳に複数の埋葬施設をもつ事例が増加している。そのため、対象時期をこれまでのよう終末期に限定するのではなく、後期まで広げる必要がある。「双室墳」を代表とする終末期古墳の埋葬形態の特徴は、前方後円墳を築造していた終末期以前の埋葬形態と同じ視点で分析し、事例を各地の古墳築造の展開のなかに位置づけてはじめて追究できるだろう。

以上を踏まえ、本稿では事前に設定した定義に基づき事例を限定する方法ではなく、横穴式石室という埋葬施設を起点に、横穴式石室+αの埋葬施設の事例を含めて集成する。これらの事例を包括する用語として「一墳丘複数埋葬古墳」を設定する。ただし、この用語では豊穴系埋葬施設を主とする前・中期古墳の事例も含まれ、研究の焦点が曖昧になる。そのため、今回は複数の埋葬施設のなかに横穴式石室を1基は採用するという条件を設けて集成を行った。

第1表 先行研究における定義の整理

3. 一墳丘複数埋葬古墳の集成と動向

今回の集成は古墳時代後・終末期における横穴式石室を埋葬施設に採用する古墳を対象とした。茨城県や千葉県に分布する「変則的古墳」や既存の古墳を再利用した例（奈良県ホケノ山古墳、群馬県津土山古墳など）は対象外とした。事例中、九州の豊穴系横口式石室の事例は古墳時代中期に属すると考えられるが、横穴系埋葬施設を複数もつ点を重視して取り上げた（註1）。

これらを踏まえ、一墳丘複数埋葬古墳の事例数は210基である（第2・3表）。

事例の内訳は各地で築造された古墳の数とその推移に違いがあり、かつ県単位の領域で実数を把握することは必ずしも実態に即していない。そのため、あくまで参考程度の数値だが、現状の集成結果では東北地方の事例は認められず、東海・中部の事例数は比較的少ない。

一方で、かねてより研究のされてきた近畿地方をはじめ、四国地方（愛媛県）、中国地方（鳥取県）、関東地方（埼玉県）に事例が集中する。

長崎県下の2事例は詳細は明らかではないが、奄美島に所在する古墳である。

時期別にみると、中期の事例は福岡県老司古墳や佐賀県谷口古墳といった豊穴系横口式石室の事例である。豊穴系横口式石室は後期の事例にも認められ、福井県十善の森古墳や同丸山城跡古墳、三重県平田17号墳、奈良県ワラ田古墳などに認められる。

後期の事例は前方後円墳に複数埋葬する形態が各地で認められる。そのうち愛媛県下で6例、鳥取県下で11例、兵庫県下で8例、埼玉県下で7例と比較的多い。兵庫県と鳥取県、愛媛県の事例は横穴式石室をもつ古墳を中心を占める。

ただし埼玉県の事例は半数が横穴式石室と豊穴系埋葬施設をもつ古墳である（第2図）。埼玉将軍山古墳は前方部に木棺が、三千塚秋葉塚古墳と三千塚長塚古墳は前方部に豊穴式石室、小見真觀

寺古墳は後円部に箱式石棺と推定される埋葬施設が存在する。

終末期の事例は近畿地方以外の事例は少ない。関東地方の終末期古墳は大型の円墳や方墳を築き、群集墳も數多く存在するが、いずれも一墳丘に横穴式石室を1基築く例である。

そのうち千葉県岩屋古墳は楠元が双室墳の例外としたように、規模・構造とともに全国的にも特異な事例である（楠元1994）。本墳の埋葬施設は草野潤平が奈良県舞谷3号墳、同4号墳を代表とする磚様式石室墳に系譜を求めていている（草野2008）。近年の調査で墳丘は108m×96mと判明し、二重周溝をもつという類い稀な規模と構造が明らかになりつつある（印旛都市文化財センター・栄町教育委員会2011～2013）。

近畿地方の終末期古墳と比較して大規模な古墳は各地で確認され、愛媛県宇摩向山古墳についても大規模な墳丘盛土と墳丘下の造成が確認されている（中2009）。こうした地方の終末期古墳のあり方は、墳丘構造と埋葬施設にみられる在地性と外來性が複雑に合わさり解釈を難しくしている。

このように一墳丘複数埋葬古墳は関東地方から九州地方の島嶼部まで事例が及ぶ。

各地で事例が増加することに加え、一墳丘複数埋葬古墳は埋葬施設が同時期に築造されたのか、それとも異なる時期に築造されたのかという一古墳内の時期判断は本資料を扱っていくうえで常に検討すべき課題である。

古墳の埋葬施設は必ずしも時期を検討できる遺物が出土するわけではない。古墳の築造時期や複数埋葬の築造方法について知るために、次節以降、古墳構造の分析を試みたい。

古墳構造から埋葬施設の構築時期を検討する一例として、埼玉県内でも遺存状態の良い一墳丘複数埋葬古墳として知られる小見真觀寺古墳について見直してみたい。

第2表 一墳丘複数埋葬古墳の地方・県別内訳

地方	時期	中期	後期						終末期						時期不明	小計	地方別
			前方後円	前方後円	円方	横円(不整、長方)	双円	不明	円方	横円	双円	長方	八	不明			
関東	茨城	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	千葉	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	栃木	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	群馬	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	埼玉	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
	東京	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
東海	神奈川	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	静岡	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	愛知	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
中部	長野	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	岐阜	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
北陸	石川	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3
	福井	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6
	三重	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
近畿	滋賀	0	3	2	0	3	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	11
	京都	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	大阪	0	3	2	2	0	6	0	2	1	0	0	2	0	0	2	20
	奈良	0	4	8	1	6	0	0	2	2	0	0	6	1	0	4	34
	和歌山	1	4	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
	兵庫	0	8	3	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	10	23
中国	岡山	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	広島	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	4
	鳥取	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	19
	島根	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	山口	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
四国	香川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	徳島	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	愛媛	0	6	13	1	3	0	5	0	2	0	0	2	0	0	3	35
九州	福岡	1	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	8
	佐賀	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	熊本	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	長崎	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
合計			3	84	39	4	14	6	8	5	8	3	0	10	2	1	210
																	210

※1 茨城県と千葉県は皮剥的古墳の事例を除外している。

※2 島根県の前方後円墳1例は、前方後方墳1例を指す。

第3表 一埴丘複数埋葬古墳の集成

No.	古 墓	古墳群	所在	輪郭	横形	墳丘	埋葬施設	県歴1980	県歴1984	三井2007	南歴2011
1	舟形山古墳	舟形	史跡	後	前方後円	36.5	横・横	-	-	-	-
2	風吹原山古墳	風吹	史跡	後	前方後円	70	横・高	-	-	-	-
3	二子宮原古墳	小船模	御本	後	前方後円	46.5	横・横	-	-	-	-
4	川崎大塚	御本	後	前方後円	49	横・横	-	-	-	-	
5	桜井大塚山古墳	御本	後	前方後円	50	横・横	-	-	-	-	
6	上原1号墳	上原	御本	後	前方後円	21	横・横	-	-	-	-
7	正門山古墳	御本	後	前方後円	72	横・高	-	-	-	-	
8	越前二子山古墳	御本	後	前方後円	99.8	横・横	-	-	-	-	
9	木津原谷山古墳	御本	後	前方後円	35	横・高	-	-	-	-	
10	圓鏡1号墳	御本	後	前方後円	46	横・横	-	-	-	-	
11	小豆真殿寺古墳	小豆	垣玉	後	前方後円	115	横・高?	-	-	-	-
12	御山山古墳	垣玉	後	前方後円	102	横・水	-	-	-	-	
13	秋葉原古墳(第V支群1号墳)	三千壁	垣玉	後	前方後円	38	横・高	-	-	-	-
14	長御古墳(第V支群1号墳)	三千壁	垣玉	後	前方後円	41	横・高	-	-	-	-
15	大隈原2号墳	垣玉	後	前方後円	36.5	横・横	-	-	-	-	
16	野間古墳	垣玉	後	前方後円	37	横・横	-	-	-	-	
17	御園古墳	御舟	千葉	方	30	横・横	-	その他の	大型独立墓	-	
18	多賀川台2号墳	佐原台	東京	後	前方後円	38	横・横	-	-	-	-
19	越前井谷古墳	神奈川	後	前方後円	30.5	横・高	-	-	-	-	
20	原山1号墳	御舟	後	前方後円	17	横・木	-	-	-	-	
21	团子山6号墳	团子山	静岡	後	前方後円	11.8	横・小	-	-	-	-
22	不動1・2号墳	受知	後	円	10~12	横・横	-	-	-	-	
23	庵原山古墳(上の坊1号墳)	長野	後	前方後円	46.4	横・横	-	-	-	-	
24	みの山古墳	大秋	垣草	後	前方後円	45	横・横	-	-	-	-
25	衣笠兵衛塚古墳	月合	垣草	後	方	29.9×29.2	横・横・横	-	-	-	-
26	御船山古墳	石川	後	前方後円	40	横・木	-	-	-	-	
27	須磨夷舟古墳	石川	後	方	25	横・横	(近畿道)	彌生4	般若4	般若山古墳	-
28	C系前第6号墳	平野二丁目	石川	後	前方後円	10~12	横・横	-	-	-	-
29	向山1号墳	内山	垣草	後	前方後円	48.5	横・須納古墳	-	-	-	-
30	十日山の森古墳	天香寺	垣草	後	前方後円	67	豊原・高	-	-	-	-
31	猿田3号墳	播磨	垣草	後	円	10	豊原・高	-	-	-	-
32	衣笠山19号墳	衣笠山	垣草	後	方	14	横・高	-	-	-	-
33	神田10号墳(1号墳)	神田	垣草	後	方	不明	横・高	-	-	-	-
34	丸山城跡古墳	丸山	後	前方後円	30	横・横	-	-	-	-	-
35	平岡17号墳	平岡	三重	後	円	18	三重7・8号墳	-	-	-	-
36	柳平山古墳	二云	後	前方後円	70	横・高?	-	-	-	-	-
37	春日宮山古墳	三雲	後	前方後円?	34	横・高	-	-	-	-	-
38	鹿島山古墳(大塚)	鹿島神社	三雲	後	前方後円	42	横・横	-	-	-	-
39	山田山15号墳	山中山	垣草	後	円	10~16	横・横・横	-	-	-	-
40	八幡山14号墳(八幡山古墳)	八幡社	白質	後	前方後円	21	横・横・横	-	-	-	-
41	留名古墳(留名古墳不動古墳)	留名	白質	後	前方後円	40	(横)・横	-	-	-	-
42	國分山古墳	國分大塚	白質	後	前方後円	45	横・横	-	-	-	-
43	猪ケ谷10号墳	猪ヶ谷	白質	後	前方後円	19~24	横・横	-	-	-	比叡山古墳
44	大谷町7号墳	大谷町	白質	後	前方後円	87.5	横・横	-	-	-	比叡山古墳
45	穴太郎山古墳	穴太郎	白質	後	円	10	横・横	-	-	-	比叡山古墳
46	太鼓塚6号墳	太鼓塚	白質	後	不明	不明	横・横	-	-	-	比叡山古墳
47	太鼓塚22・23号墳	太鼓塚	白質	後	横	10	横・横	-	-	-	比叡山古墳
48	吉次山1号墳	吉次	白質	後	横	12~18	横・横	-	-	-	比叡山古墳
49	吉次山2号墳	吉次	白質	後	横	3~2	横・横	-	-	-	比叡山古墳
50	大隈野山古墳	大隈野	白質	後	方	1~2	横・横	-	-	-	比叡山古墳
51	大隈野2号墳	大隈野	白質	後	方	71	横・横	-	-	多連	-
52	牧王古墳	牧王	後	前方後円	35	青・横・高	-	-	-	-	-
53	妙見山1号墳	妙見	後	円	30	横・高	-	-	-	-	-
54	瓦覆山古墳	瓦覆	不明	円	7~15	横・低	瓦丘塚	-	-	-	-
55	片桐山古墳	片桐	后	円	25	横・低	-	-	-	-	-
56	荒谷蛇形古墳	荒谷	后	方	46	横・木	-	-	-	-	-
57	荒谷蛇形古墳	荒谷	后	方	46	横・木	-	-	-	-	-
58	二子山古墳	二子山	后	方	45	横・高	-	-	多連	-	-
59	向51号墳	向	后	方	25	横・高	-	-	多連	-	-
60	35号新規12・14号墳	平尾山	大坂	后	方	11~12	横・横	-	-	空筒	比叡山古墳
61	室山古墳	室山	大坂	后	方	5~9	横・高	彌生4	彌生4	針織	大室山古墳
62	一ノ瀬村12号墳	一瀬	大坂	后	方	7~8	(横)・高・高	(横)・高・高	彌生4	-	-
63	山根古墳	山根	大坂	后	方	30	横・高	山根	-	-	-
64	阿久比1号古墳	阿久比	大坂	后	方	25~25	横・高	山根	-	-	-
65	荒谷蛇形古墳	荒谷	后	方	83.8	横・高	瓦丘塚	-	-	-	-
66	荒谷蛇形古墳	荒谷	后	方	83.8	横・高	瓦丘塚	-	-	-	-
67	鶴見山(五瀬山)2号墳	鶴見	大坂	后	方	不明	(横)・高	-	-	-	-
68	鶴見山古墳	鶴見	大坂	后	方	不明	(横)・高?	瓦丘塚	-	-	-
69	山田2号古墳	山田	大坂	后	方	30	横・高	瓦丘塚	-	-	-
70	山田御寺古墳	山田	大坂	后	方	10	横・?	瓦丘塚	-	-	-
71	山田御寺2号墳	山田	大坂	后	方	50	横・?	瓦丘塚	-	-	-
72	大隈野古墳(神田5号墳)	神田	大坂	后	方	24.5	横・高	瓦丘塚	-	-	-
73	蓬穴6~8号墳	蓬穴	大坂	后	円×2	28~37	横・横	-	-	海跡	-
74	鶴見5~6号墳	鶴見	大坂	后	円	10	横・高	-	-	海跡	-
75	鶴見6号墳	鶴見	大坂	后	円	15	横・高	-	-	-	-
76	鶴見大塚古墳	鶴見	台	后	方	76	横・高	-	-	-	-
77	鶴見山C2~5号墳	鶴見山	台	后	不整形	12~8	横・高・高	-	-	海跡	-

No.	古墳	古墳群	所在	時期	墳形	墓名	埋葬施設	発見1960	発見1964	三野2007	南野2011
78	石室4号墳	石上・豊田	奈良	後	不整形	10	横・竪	—	横開2	—	—
79	タケハラ1号墳	石上・豊田	奈良	後	不明	12	横・竪	—	横開2	—	—
80	シント21・2号墳	奈良	後	長方形	17×10	横・横	—	横開1	摩耶	—	—
81	御山古墳(吉子1号墳)	吉子	奈良	後	円	20	横・堅石棺複数	—	—	—	—
82	H22・24号墳	寺口古墳	奈良	後	不整形	10×14	横・横	—	寺谷	—	—
83	H29・30号墳	寺口古墳	奈良	後	不整形	16×8	横・横	—	寺谷	—	—
84	H37・38号墳	寺口古墳	奈良	後	不整形	10×8	横・空氣孔	—	寺谷	—	—
85	团子古墳	奈良	後	方	20	横・横	—	團型2	—	—	—
86	平野川地区2号墳	寺口古墳	奈良	後	円	6.3	横・横	—	—	—	—
87	平野川地区3号墳	寺口古墳	奈良	後	円	6.5	横・横	—	—	—	—
88	[平野川地区5号墳]	寺口古墳	奈良	後	不整形	18	横・横・空氣孔×4	—	團型2	摩耶	—
89	平野川地区11号墳	寺口古墳	奈良	後	円	11.5	横・横・空氣孔×3	—	團型2	—	—
90	平野川地区15-16号墳	寺口古墳	奈良	後	円	13	横・横	—	增塗	—	—
91	二郎1号墳	奈良	後	前方後円	8.9	横・横・横	—	—	多塗	—	—
92	向山古墳(占領)	奈良	後	円	14	横口・横口	及御塗	團型4	計測	横口式石室	—
93	三成12号墳	奈良	後	長方形	21.8×17.8	横・横	—	團型4	計測	奇象塗内の古墳	—
94	三成5号墳	奈良	後	長方形	21.6×17.6	横・横	—	團型4	計測	奇象塗内の古墳	—
95	馬城13号墳	御山	奈良	後	前方後円	47	横・横	—	—	—	—
96	舞子5号墳	舞子	奈良	後	長方形	14.9×9	横・横	—	—	—	—
97	舞子6号墳	舞子	奈良	後	長方形	15×10	横・横・横	—	—	計測	舞子式石室塗
98	舞子7号墳	舞子	奈良	後	長方形	14×10	横・横・横	—	—	計測	舞子式石室塗
99	舞子8号墳	舞子	奈良	後	長方形	15×10	横・横	—	—	計測	舞子式石室塗
100	舞子9号墳	舞子	奈良	後	円	10	横・横	—	—	計測	舞子式石室塗
101	二丈1号墳	二丈	奈良	後	前方後円	50後塗	横・横	—	—	計測	舞子式石室塗
102	三輪山古墳	三輪山	奈良	後	方?	50	横・横	—	—	—	—
103	小泉山古墳	小泉	奈良	不詳	円	23	横・空氣孔	—	團型2	—	—
104	望月山	望月	奈良	後	方	40	横・横	—	計測	—	—
105	石光山13号墳	石光山	奈良	後	円	13	堅石・空氣孔	—	—	—	—
106	石光山14号墳	石光山	奈良	後	円	12	横・横・小塗	—	團型2	—	—
107	石光山84号墳	石光山	奈良	後	—	—	横・横	—	—	—	—
108	東山古墳	東山	奈良	後	八角形	22	特殊	及御塗	—	横口式名跡	—
109	夕日山古墳	奈良	後	円	12~17	堅石・堅塗	—	—	—	—	—
110	大谷18号墳	岩橋子	和歌山	後	前方後円	25	横・沿	—	—	—	—
111	大谷19号墳	岩橋子	和歌山	中・後	前方後円	25	堅・横・横	—	—	—	—
112	寺門山1号墳	寺門子	和歌山	後	前方後円	25.6	横・横	—	—	—	—
113	前山13号墳(御家原古墳)	寺門子	和歌山	後	前方後円	42.5	横・横	—	—	—	—
114	前山27号墳(御家原古墳)	寺門子	和歌山	後	前方後円	20.5	横・横	—	—	—	—
115	朝山山4号墳	朝山	和歌山	後	円	17	横・横	—	—	—	—
116	寺門山5号墳	寺門山	和歌山	後?	—	縫隙	16×14	—	—	—	—
117	和戸山古墳	和戸山	和歌山	後	前方後円	21×17	横・堅・空氣孔・空氣孔	—	—	—	—
118	上山古墳	和戸山	和歌山	後	円	40	横・横・横?	—	—	—	—
119	若狭山12号墳	八十石	奈良	後	円	12	横・横	及御塗	團型4	計測	経堂塗内の古墳
120	半田21号墳	奈良	後	不明	円	10	横・横	—	—	—	—
121	正室山1号墳	正室山	奈良	後	不明	円	16	横・横・横	—	—	—
122	向山1号墳	向山	奈良	後	不整	円?	—	横・横	—	—	—
123	向山2号墳	向山	奈良	不整	円	10	横・横	—	—	—	—
124	トロイダ環濠集落	小谷	奈良	不整	円	12	横・横	—	—	—	—
125	糸井山古墳	糸井山	奈良	不整	円	18	横・横	—	—	—	—
126	上山古墳	糸井山	奈良	後	前方後円	27	横・横	—	—	—	—
127	勝山古墳	糸井山	奈良	後	前方後円	37	横・横	—	參考	—	—
128	向山古墳	糸井山	奈良	後	不明	円	13.5	横・横	—	—	—
129	こじら12号墳	こじら	奈良	不整	円	16	横・横	—	—	—	—
130	けいじ12号墳	兵庫?	奈良	不整	円?	13	横・横	—	—	—	—
131	難波古墳(御家原)	小谷	奈良	不整	円	12	横・横	—	—	—	—
132	かの山古墳	奈良	不整	円	18	横・横	—	—	—	—	—
133	金剛山6号墳(道鏡14号墳)	金剛山	奈良	後	不明	円	15	横・横	—	—	經堂塗内の古墳
134	見野山古墳	見野	奈良	後	不明	円	—	—	—	—	經堂塗内の古墳
135	見野長瀬古墳	見野	奈良	後	不明	円	—	—	—	—	—
136	西ノ山古墳	西ノ山	奈良	後	前方後円	34	堅・不銹	—	—	—	—
137	ざる古墳	西ノ山	奈良	後	前方後円	30.5	横・横	—	—	—	—
138	丁子山1号墳	西ノ山	奈良	後	前方後円	30	横・横	—	—	—	—
139	小矢山古墳(山王12号墳)	小矢山	奈良	後	前方後円	30	横・横	—	—	—	—
140	小矢山古墳	小矢山	奈良	後	円	38	横・横	—	—	—	—
141	神戸二郷古墳	神戸	奈良	後	前方後円	44	横・横	—	—	—	—
142	今山1号墳	此良山	奈良	後	前方後円	23	横・横	—	—	—	—
143	二丈古墳(通14号墳)	通山	奈良	後?	—	—	—	—	—	—	—
144	牛之古墳	通山	奈良	後	前方後円	30	横・横	—	—	—	—
145	二十石古墳	通山	奈良	後	前方後円	68	横・横	—	—	—	—
146	高麗山1号古墳	高麗山	奈良	後	八角形	15.4	横口(5個椎溝)	—	—	—	—
147	打幡山1-2号墳	打幡山	奈良	後	円?	6~7	横・横	—	—	—	—
148	舟崎17号墳	舟崎	奈良	後	前方後円	60	横・横	—	—	—	—
149	上神14号墳	上神	奈良	後	前方後円	34	横・横	—	—	—	—
150	鹿苑古墳(平山13号墳)	鹿苑	奈良	後	前方後円	34	横・横	—	—	—	—
151	老翁古墳(御家原)	老翁	奈良	後	前方後円	29	横・横	—	—	—	—
152	御家原古墳(通江内山1号墳)	御家原	奈良	後	前方後円	54	(堅・横・横)	—	—	—	—
153	長谷4号古墳	長谷	奈良	後	前方後円	45	横・横	—	—	—	—
154	百坂4号古墳	百坂	奈良	後	前方後円	23.5	横・横	—	—	—	—
155	石州前山古墳	石州前	奈良	後	前方後円	38	横・横	—	—	—	—
156	御家原1号墳(老翁古墳)	御家原	奈良	後	前方後円	27	横・横	—	—	—	—
157	御家原2号墳	御家原	奈良	後	前方後円	37	横・横	—	—	—	—

No.	古 窓	古跡群	所在	時期	窓形	窓長	群別施設	風雲1980	風雲1984	三野2007	南部2011
159	薄田37号墳	鳥取	後	前方後円	25.9	横・直・端	—	—	—	—	—
159	薄田原古墳	鳥取	後	前方後方	50	横・直	—	感型3	—	—	—
160	車塚古墳	山口	後	前方後円	56	横・直	—	—	—	—	—
161	瀬吉古墳	香川	不明	円	不明	横・横・横	—	—	—	—	—
162	三島1号墳(小島西1号墳)	三島	鳥島	後	前方後円	15	横・直	—	—	—	—
163	吉船古墳	受援	後	前方後円	30	横・直	—	—	—	—	—
164	廣木2号墳	受援	後	前方後円	39	横・直・端	—	—	—	—	—
165	天下田2号墳	天下田山北	集謹	後	椭円	29×15	横・直	—	—	—	—
166	天下田3号墳	天下田山北	受援	後	長方形	34	横・直	—	—	—	—
167	天下田4号墳	天下田山北	受援	後	円	40	横・横・横	—	—	—	—
168	川上社古墳	受援	後	長方形	30×21	横・横	—	—	—	—	—
169	萬葉天狗山古墳	受援	後	椭円	40	横・横・端・端	—	—	—	—	—
170	福井御殿天狗山古墳	受援	後	前方後円	32.6	横・直	—	—	—	—	—
171	リ・2・冠石古墳	受援	後?	不明	不明	横・直	—	—	—	—	—
172	東山遺跡44號1号墳	東山	受援	後	円	11	(横)直	—	—	—	—
173	東山遺跡44號4号墳	東山	受援	後	円	13.7	横・直	—	—	—	—
174	東山遺跡44號6号墳	東山	受援	後	円	14	横・直	—	—	—	—
175	久居80号墳	久居	受援	後	円	12	横・直	—	—	—	—
176	久居47号墳	久居	受援	後	不明	横・(横)	—	—	—	—	—
177	久居4号墳	久居	受援	後	不明	横・直	—	—	—	—	—
178	大和ヶ谷古墳4号墳	宍津	受援	後	円	10	横・直	—	—	—	—
179	大和ヶ谷古墳5号墳	宍津	受援	後	円	11	横・直	—	—	—	—
180	大和ヶ谷古塚9号墳	寺等	受援	後	円	15	横・直	—	—	—	—
181	福井御殿天狗山古墳	受援	後	不明	横・直	—	—	—	—	—	—
182	福井御殿天狗山11号墳	福井御殿台	受援	後	円	20~	横・直	—	—	—	—
183	福井古墳	受援	後	円	12	横・(横・端?)	—	—	—	—	—
184	新谷3号墳	受援	後?	不明	横・(横・端?)	—	—	—	—	—	—
185	新谷3号墳	新浦	受援	後?	方?	35.5×25	横・直	—	—	—	—
187	衣笠山3号墳(衣笠山古墳)	大西	受援	後	前方後円	30	横・直	—	—	—	—
188	中野41号墳	受援	後?	方?	13.5	横・直	—	—	—	—	—
189	古河門谷1号墳	受援	不明	円	14	横・直	—	—	—	—	—
190	伊勢谷1号墳	妻子台子	受援	後?	円	12	聖經・聖	—	—	—	—
191	伊勢谷2号墳	妻子台子	受援	後?	不明	12	横・直	—	—	—	—
192	伊勢谷3号墳	妻子台子	受援	後?	不明	10	横・直	—	—	—	—
193	伊勢谷11号墳	妻子台子	受援	後?	不明	9	横・直	—	—	—	—
194	栗山の谷丘丘陵	栗山	受援	後	前方後円	30	横・直	—	—	—	—
195	お加古山古墳	受援	後	円	22	横・直	—	—	—	—	—
196	宇治山古墳	受援	後	長方形	46×70	横・直	聖型3	—	—	—	—
197	尾ノ河古墳	伊予三島	受援	後	前方後円	30	横・直	—	—	—	—
198	庄内宿禰古墳	福岡	受援	後	前方後円	90	横・直	—	—	—	—
199	箕佐丸山古墳	福岡	受援	後	前方後円	40	横・直	—	—	—	—
200	高木古墳	石室	受援	後	前方後円	91	横・直	—	—	—	—
201	城山65号墳	横ヶ谷	受援	後	前方後円	22	横・直	—	—	—	—
202	老母山古墳	受援	中	前方後円	76	聖型×5	—	—	—	—	—
203	八重子(横谷内)古墳	受援	前?	不明	横・直	横・直	聖型4	—	—	—	—
204	施比天塚古墳	受援	後	前方後円	25	横・直	—	—	—	—	—
205	大和1号墳	福岡	受援	後	円	30.4	横・直	—	—	—	—
206	谷石古墳	丘黄	中	前方後円	77	聖型・聖城	—	—	—	—	—
207	御宿古墳	日置原	正實	後	前方後円	50	横・直	—	—	—	—
208	足利古墳(大坂古墳)	施比	後	前方後円	21	横・直	—	—	—	—	—
209	百合塚15号墳	百合塚	長崎	前方後円	25	横・直	—	—	—	—	—
210	二葉古墳	長崎	不明	双円?	不明	横・直	—	—	—	—	—

凡 例

【歴史】

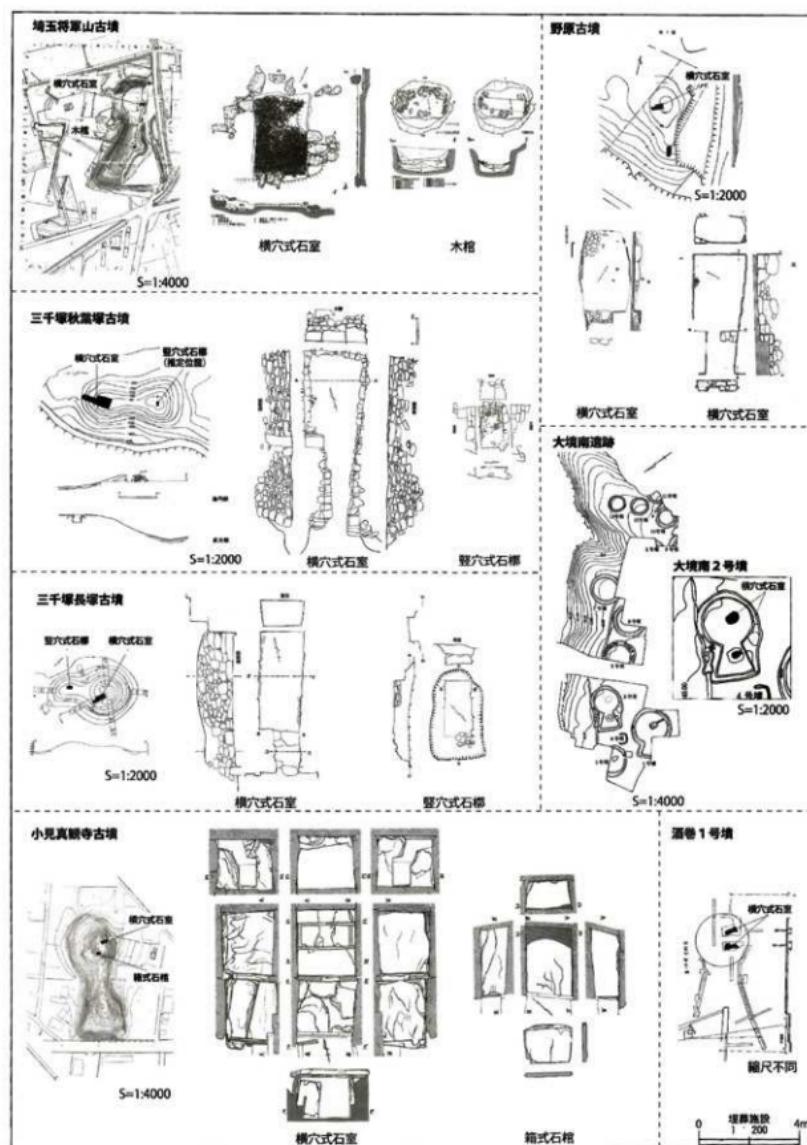
前方後円: 前方後円墳、前方後方: 前方後方墳、円: 円墳、方: 方墳、権現: 権現形墳、長方形: 長方形墳、京円: 京円墳、八角形: 八角形墳、不規形: 不規則形墳

【現存施設】

横: 横穴式石室、横口: 横口式石室、義木: 押穴式木室、聖孔: 聖穴系洞口式石室、聖: 聖穴式石室、若: 若穴式石室、木: 木棺或木棺、小: 小石室、聖小: 聖穴系小石室、壁: 壁施設、柱: 上柱施設

【三野2007】

多室: 多室前方後円墳、計画: 計画の多室墳、堆積: 堆積の多室墳



第2図 埼玉県の一墳丘複数埋葬古墳

4. 小見真觀寺古墳の構造

埼玉県行田市小見真觀寺古墳は小見古墳群に属する墳長102mの前方後円墳である。本古墳には後円部に埋葬施設が2基造られており、1基は横穴式石室でもう1基は箱式石棺と推定されている。

後述するように横穴式石室は盗掘のため遺物の出土はないが、緑泥片岩の板石を用いた巨大な石室で、一方の箱式石棺（推定）は明治時代に多数の副葬品が出土している点から、古くから当地に関する古墳研究では注目されてきた。

近年、周溝部分の発掘調査が実施され、埴輪片が出土したが、これは隣接する虚空蔵山古墳に帰属する遺物の可能性が高く、現状では埴輪を樹立しない最後の前方後円墳と評されている。本墳は埼玉県内では数少ない横穴式石室と埴丘盛土が現存する古墳で、1989年には田中広明と大谷徹により、2つの埋葬施設の実測図が公開されている（田中・大谷1989）。現状では築造年代は箱式石棺出土遺物（須恵器、蓋及脚付銅鏡、銅鏡、頭椎大刀、圭頭大刀、耳環、刀子、小札、衝角付冑、鐵鎌、人骨）から6世紀末～7世紀初頭とされている。

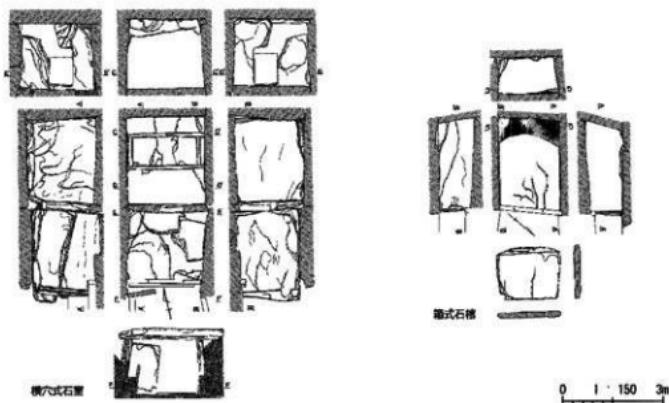
さて、本墳の古墳構造は発掘調査が行われてい

ないため、埴丘範囲、および埴丘盛土構造は不明である。ここでは埴丘測量図と2基の埋葬施設の実測図、および現地確認から推測できる点についてみていきたい。

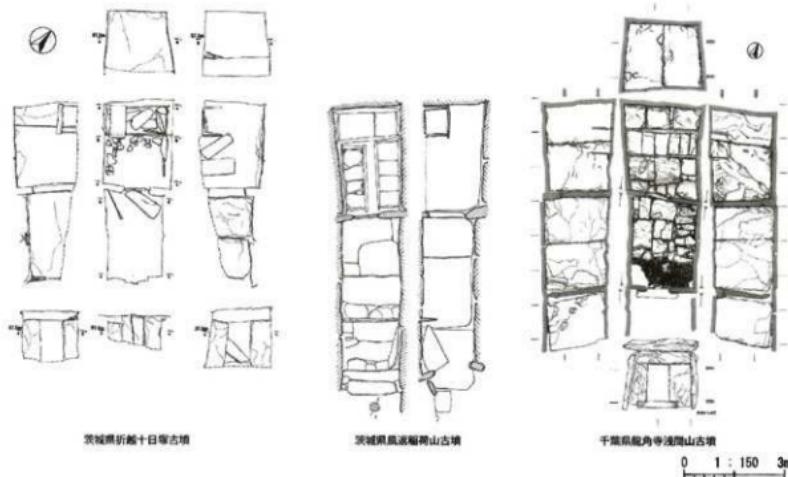
横穴式石室は緑泥片岩を用いた複室構造の板石組石室で、主軸はN-11°E、全長5.5m以上、玄室（長2.62m、幅2.33m、高2.33m）、前室（長2.41m、幅2.24m）を計る（第3図）。

田中広明と大谷徹による報告以来、本石室は割り抜き玄門をもつ板石組石室という点から、茨城県風返稻荷山古墳など霞ヶ浦周辺の板石組石室との形態的類似性が指摘されている。近年では茨城県折越十日塚古墳、千葉県龍角寺浅間山古墳の横穴式石室構造も明らかになり、これらの事例間の共通性の背景を追究する試みもなされている（霞ヶ浦町遺跡調査会2000、千葉県史料研究財團2002、佐々木ほか2012）（第4図）。

横穴式石室の石組みをみてみると、まず、両側壁が奥壁に接する部分を削ったうえで奥壁を挟み込む。割り抜き玄門の石材は後世に剥落して前室床面に上半部が落下している。玄門部と前門部にはこうした板石の門を設置するための加工痕があ



第3図 小見真觀寺古墳の埋葬施設



第4図 小見真親寺古墳横穴式石室の類例

る。床面一面に敷く石材にも板石が用いられており、砂利や河原石を敷く床面構造が一般的な埼玉県内の横穴式石室とは異なる特徴である。玄室の床面石材には組合式箱式石棺を主軸に直交して設置していた痕跡が残る。こうした床面石材の設置痕と石棺の設置位置は龍角寺浅間山古墳とも共通する点である。

横穴式石室の構築位置は墳丘範囲が未確定で、かつ墳丘南側が真親寺により大きく改変を受けているため断定できない。これを踏まえて推測すると、本墳の墳丘残存部における墳裾が20m付近にあり、横穴式石室羨道部付近の標高が約21.56mという点を考慮すると、横穴式石室は墳丘盛土上に位置する可能性がある（第5図）。

箱式石棺（推定）も緑泥片岩を用いた構造で、主軸はN-50°-E、全長2.8m、幅1.76m、高1.12mと推定されている。

石材は緑泥片岩を各壁と床面、天井石に一枚ずつ使用している。石材の組み方をみると、まず、両側壁が奥壁に接する部分を削ったうえで奥壁を

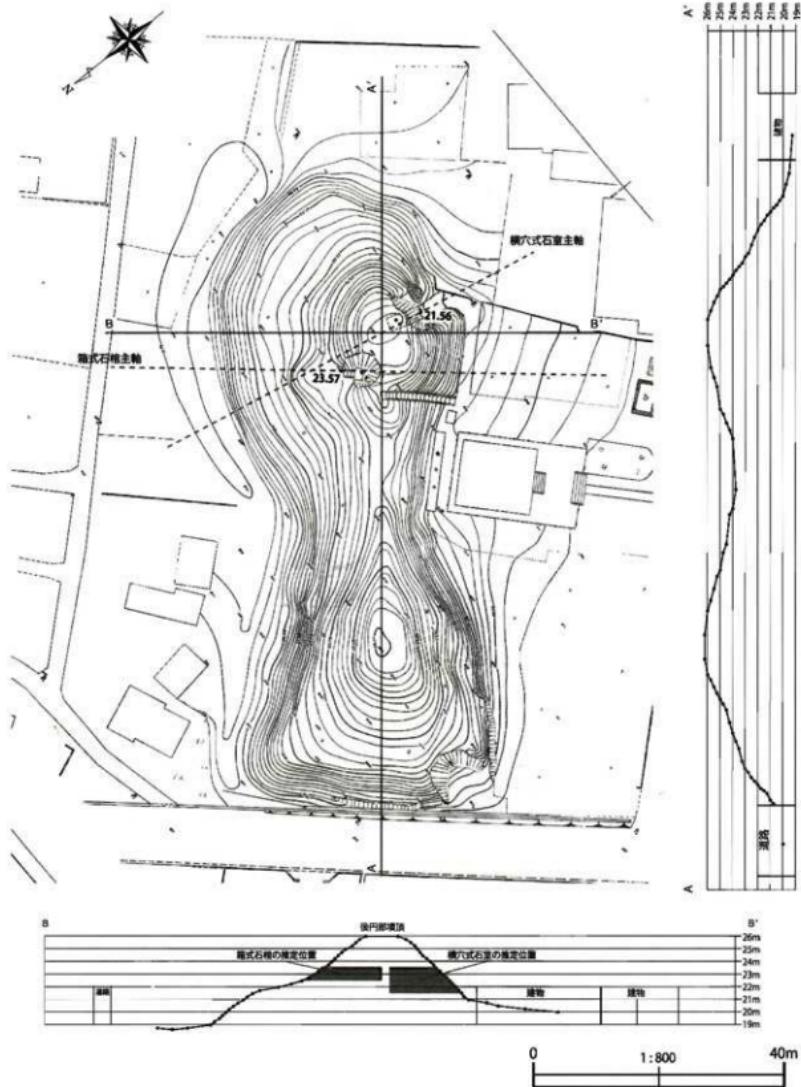
挟み込む。

天井石は奥壁直上の石材は小さく、「棺」全体を覆う石材は大きい。天井石の両石材の間に小石材を挟み込んで安定させている。また、奥壁側の天井石が「棺」側の天井石に重なっており、奥壁上部を最後に閉塞したと考えられる。

以上を踏まえると、石材の設置順序は次の通りである。まず奥壁と床面石材を設置し、両側壁石材を奥壁・床面石材を挟み込むように設置し、現在の開口部側石材をはめ込む。その後、「棺」側の天井石を架構し、最後に奥壁側の天井石を架構した。仮にこれが箱式石棺とすると、埋葬・副葬後の閉塞時に設置した石材は現在の開口部側石材か、奥壁側の天井石か二つの可能性がある。

箱式石棺の構築位置も断定はできないが、第2埋葬施設の開口部に至る階段上で標高23.57mを計り、石棺内部の高さは1.12mという点から、少なくとも墳丘盛土上に構築されているだろう。

両埋葬施設の構造に注目しつつ、改めて墳丘測量図に記載されている標高値を確認すると、横穴



第5図 小見真觀寺古墳の墳丘に対する横穴式石室の推定位置

式石室羨道付近の標高は21.56m。羨道石材が抜き取られていることを考慮すると、本来の高さとは10cm前後の誤差はあるが、これはおおよそ横穴式石室の床面標高に近い。横穴式石室の高さは2.02mで、標高21.56m（推定床面）+2.02m（玄室高）=23.58mが天井石の推定標高値となる。

次に箱式石棺周辺の標高をみると、開口部へ至る階段上で標高23.57mを測る。この数値は先の横穴式石室天井石の高さと近い値を示す。さらに箱式石棺の天井石はおおよそこの階段上と同じ高さに位置する。そのため、推定を重ねると横穴式石室と箱式石棺の天井石はほぼ同じ高さに位置している可能性がある。

箱式石棺の高さは1.12mのため、天井石を基準に考えると、横穴式石室の半分ほどの高さに箱式石棺の床面石材が位置するだろう。

墳丘に対する両者の平面的位置は、本墳の墳丘範囲が未確定だが測量図から推定した墳丘主軸線を図5に示した。墳丘は後円部とくびれ部の南側、および前方部全面が削られており、原状を留めていない。そのため、墳丘長軸線は後円部と前方部の墳頂平坦面を結線し、短軸線に関しては後円部墳頂平坦面から長軸線に対して90°直交した方向を推定線として設定した。

この推定墳丘主軸に対して横穴式石室の主軸はN-11°-Eで、墳丘主軸ではなく横穴式石室の南方向への開口を意図している。ただし、奥壁位置は墳丘長軸・短軸の直交する位置に近接し、奥壁は墳丘中央部に位置する可能性がある。

箱式石棺の主軸はN-50°-Eで、これは墳丘短軸に近い方位と考えられる。また、最奥部の小口部石材（現状の奥壁）が墳丘長軸に近接する位置にあり、横穴式石室のように南方位ではなく、墳丘主軸に対応した方向に設置されている。このように、横穴式石室は南方向への開口を意図した主軸を、箱式石棺は墳丘と対応した主軸をとる。箱式石棺の主軸設定は三千塚長塚古墳や三千塚秋

葉塚古墳の竪穴式石棺にも認められ、こうした点からも小見真觀寺古墳の第2埋葬施設は箱式石棺の蓋然性が高い。

このように横穴式石室と箱式石棺の天井石の高さが近似する点、横穴式石室の中間の高さに箱式石棺が造られている点、墳丘主軸との関連性が認められる点から、両者は無秩序に造られたわけではなく、相互の立面的位置関係を考慮した構造と推測される。

すなわち、小見真觀寺古墳の墳丘と2基の埋葬施設は一挙に築造された可能性が高い。この点は両埋葬施設に用いられた石材が緑泥片岩で、石材の加工方法と組み方に共通点が多いことからも補強されよう。

小結

本稿では一墳丘複数埋葬古墳の先行研究と用語の整理を踏まえ、事例の集成を行った。さまざまな墳形と埋葬施設の組み合わせが認められるなか、古墳構造から埋葬施設の築造時期を検討する一例として小見真觀寺古墳を取り上げた。

その（2）では一墳丘複数埋葬古墳を分類し、それに基づいて分析を進めていきたい。

付記

本稿は平成24年度公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団研究助成の成果による。研究助成による古墳の調査では、下記の機関のご協力を頂戴した。記して感謝申し上げます。

大阪府近つ飛鳥博物館 奈良県葛城市歴史博物館

註1 本事例は先行研究のほかに、[第3表地方別集成文献]をもとに集成した。現状では全国の報告書を総覧するには至らず、本集成には遗漏があると思われる。事例の増加は研究を継続するなかで更新していくたい。本稿では集成事例に関する出典は紙幅の都合上割愛した。出典のみでも膨大な頁を削くことになるため、機会を改めて公表したい。ご寛恕いただければ幸いである。

引用文献

- 泉森 敏 1980 「『双墓』に関する二・三の問題」『藤井祐介君追悼記念考古学論叢』 pp.263-285 藤井祐介君を偲ぶ会
- 市毛 熊 1963 「東国における埴丘壙に内部施設を有する古墳について」『古代』第41号 pp.19-26 早稲田大学考古学会
- 出綱康行 1993 「大境南遺跡の調査」「第26回遺跡発掘調査報告会発表要旨」埼玉考古学会ほか
- 茨木信雄 1981 「一埴丘二石室の古墳をめぐって」「よみがえる古代の但馬」pp.191-200 但馬考古学研究会
- 印旛郡市文化財センター・栄町教育委員会 2011 「岩屋古墳第1次現地説明会資料」
- 印旛郡市文化財センター・栄町教育委員会 2012 「岩屋古墳第2次現地説明会資料」
- 印旛郡市文化財センター・栄町教育委員会 2013 「岩屋古墳第3次現地説明会資料」
- 岡本健一 1997 「將軍山古墳『史跡埼玉古墳群整備事業報告書』—史跡等活用特別事業—」埼玉県教育委員会
- 小栗 梓 2010 「双室墳に関する覚書」『大阪府立近つ飛鳥博物館報』13 pp.25-28 大阪府立近つ飛鳥博物館
- 小田富士雄 1980 「横穴式双室古墳とその系譜—九州終末期古墳の研究（一）—」『古文化論叢』第7集 pp.147-170 九州古文化研究会
- 霞ヶ浦町遺跡調査会 2000 「風返稻荷山古墳」霞ヶ浦町教育委員会
- 金井塚良一編 2012 「三千塚古墳群—発掘調査の概要—」東松山市教育委員会
- 草野潤平 2008 「千葉県猿角寺岩屋古墳の石室系譜」「地域と文化の考古学」II pp.509-520 明治大学文学部考古学研究室
- 橋元哲夫 1994 「第4章—埴丘内複数横穴式石室墳の諸問題—とくに「双室墳」等にあらわれる終末期墓制の特質について—」『舞谷古墳群の研究』pp.129-149 由良大和古代文化研究協会
- 栗田茂敏編 2003 「葉佐池古墳」 松山市教育委員会
- 栗田茂敏編 2010 「葉佐池古墳—3・4・5次調査—」 松山市教育委員会・松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター
- 埼玉県 1982 「新編埼玉県史」資料編2
- 齋藤 忠 1987 「双円墳の築成」「東アジア葬・墓制の研究」pp.108-115 第一書房
- 佐々木憲一ほか 2012 「茨城県かすみがうら市所在古墳時代終末期の前方後円墳測量調査報告」「古代学研究所紀要」第17号 pp.131-151 明治大学古代学研究所
- 渋谷興平 1989 「埴丘部に複数の内部主体部を有する古墳の検討」「古墳時代墓制研究」pp.250-270 伸書社
- 下垣仁志 2008 「古墳複数埋葬の研究史と論点」「古代学研究」180号 pp.149-156 古代学研究会
- 下垣仁志 2012 「古墳時代首長墓系譜論の系譜」「考古学研究」第59巻第2号 pp.56-70 考古学研究会
- 白石太一郎 2010 「大阪府河内南町金山古墳の再検討」「大阪府立近つ飛鳥博物館報」13 pp.3-14 大阪府立近つ飛鳥博物館
- 鈴木一有 2011 「横穴式石室」「古墳時代の考古学」3 pp.138-148 同成社
- 清家 章 2005 「後円部と前方部の被葬者」「井ノ内稻荷塚古墳の研究」 pp.407-424 大阪大学稻荷塚古墳発掘調査団
- 田中広明・大谷 徹 1989 「東国における後・終末期古墳の基礎的研究（1）」「研究紀要」第5号 pp.71-138 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 千葉県史料研究財團 2002 「印旛郡栄町浅間山古墳発掘調査報告書」千葉県
- 中 勇樹 2009 「宇摩向山古墳発掘調査報告書I—平成15年度から平成20年度調査報告書—」四国中央市教育委員会
- 中村 浩 2010 「大阪府河内郡河内町所在金山古墳の年代とその被葬者像」とくに出土須恵器の再検討から」「立命館大学考古学論集」5 pp.239-254 立命館大学考古学論集刊行会
- 南部裕樹 2011 「合葬と追葬—「双室墳をめぐって」—」「姫路市見野古墳群発掘調査報告」 pp.147-155 立命館大学文学部
- 畠 信次・高田莊爾編 2006 「二子塚古墳発掘調査報告書—2002年度（平成14年度）～2005年度（平成17年度）—」福山市教育委員会
- 堀田啓一 1997 「河内の双円墳について」『豊田直先生古稀記念論文集』pp.221-237 真陽社

- 正岡聰夫 1982 「愛媛県における横穴式石室の概要」『古文化試叢』第10集 pp.229-254 九州古文化研究会
- 三好 玄 2007 「横穴式石室における埋葬原の研究—複数の横穴式石室をもつ古墳の検討から—」『勝福寺古墳の研究』pp.329-353 大阪大学文学研究科考古学研究室
- 森下浩行・坂靖・細川康晴 1987a 「湖西地域南部における群集墳の構造と系譜（上）」『古代学研究』第113号 pp.19-33 古代學研究會
- 森下浩行・坂靖・細川康晴 1987b 「湖西地域南部における群集墳の構造と系譜（下）」『古代学研究』第114号 pp.33-39 古代學研究會
- 柳田敏司 1962 「おどる埴輪を出土した前方後円墳について」『埼玉研究』第6号 pp.46-50 埼玉地理学会・埼玉県地方史研究会・埼玉県考古学会
- 吉水眞彦 2008 「比叡山東麓古墳群の双室墳について」『王權と武器と信仰』pp.372-383 同成社
- 脇板光彦 1998 「終末期古墳の地域研究—墳二石室の單幕墓—」『芸備』第27集 pp.27-36 芸備友の会

第3表 地方別集成文献

【東北・関東】

群馬県古墳時代研究会 1998~2002 「群馬県内の横穴式石室」 I ~ V

塙野 博 2004 「埼玉の古墳」（北足立・入間／比企・秩父／児玉／大里／北埼玉・南埼玉・北葛飾） さきたま出版会

東京都教育委員会 2013 「付編2 東京都内終末期古墳関係資料集成」『文化財の保護』第45号

【中部・東海・北陸】

三河考古学講話会 1994 「東三河の横穴式石室 資料編」三河考古第6号

静岡県考古学会 2003 「静岡県内の横穴式石室」

勢濃尾研究会 2005 「横穴式石室からみた濃尾の地域社会 附、濃尾の横穴式石室集成」

水平寺町教育委員会 2007 「北陸の横穴式石室集成」

【近畿】

帝塚山考古学研究所古墳部会編 1990 「横穴式石室を考える—近畿の横穴式石室とその系譜—」

横穴式石室研究会 2007 「近畿の横穴式石室」

【中国・四国】

出雲考古学研究会 1987 「石棺式石室の研究—出雲地方を中心とする切石造り横穴式石室の検討—」古代の出雲を考える6

【九州】

第2回九州前方後円墳研究会 1999 「九州における横穴式石室の導入と展開」（第I・第II分冊）

第11回九州前方後円墳研究会 2008 「後期古墳の再検討」発表要旨・資料集

第12回九州前方後円墳研究会 2009 「終末期古墳の再検討」発表要旨集

【列島全般】

近藤義郎編 1991 「前方後円墳集成」（中国・四国編） 山川出版社

近藤義郎編 1992a 「前方後円墳集成」（中部編） 山川出版社

近藤義郎編 1992b 「前方後円墳集成」（近畿編） 山川出版社

近藤義郎編 1992c 「前方後円墳集成」（九州編） 山川出版社

近藤義郎編 1994 「前方後円墳集成」（東北・関東編） 山川出版社

近藤義郎編 2000 「前方後円墳集成」（補遺編） 山川出版社

図版出典

表1~4：筆者作成、図1：鈴木2011から引用、図2：埼玉将軍山古墳（岡本1997）、酒巻1号墳（塙野2004）、三千塚古墳群（金井塚編2012）、小見真櫻寺古墳（埼玉県1982）・（田中・大谷1989）、野原古墳（柳田1962）、大境南2号墳（出溝1993）から引用・改変、図3：（田中・大谷1989）から引用・改変、図4：（佐々木ほか2012）、（霞ヶ浦町遺跡調査会2000）、（千葉県史料研究財団2002）から引用・改変、図5：（埼玉県1982）、（田中・大谷1989）から引用・改変

研究紀要 第28号

2014

平成26年3月17日 印刷

平成26年3月20日 発行

発行 公益財團法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 熊谷市船木台4丁目4番地1

<http://www.saimaibun.or.jp>

電話 0493-39-3955

印刷 巧和工芸印刷株式会社